

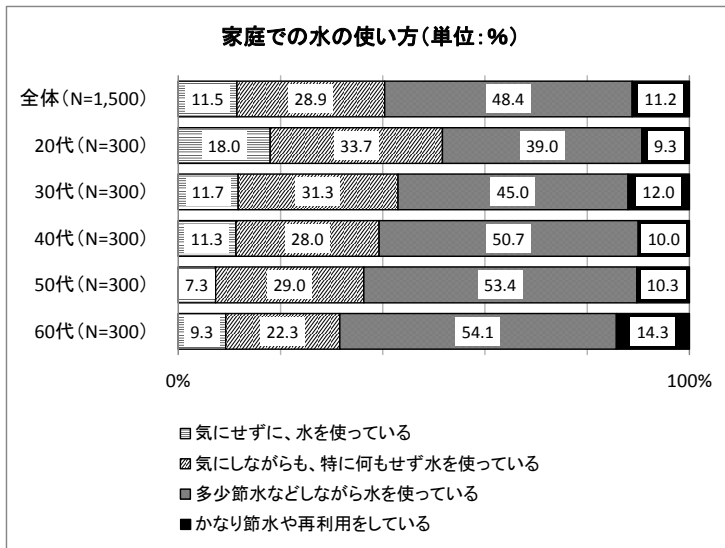
日常の水意識／東京・大阪・中京圏

Q.水の使い方は？ (4択)

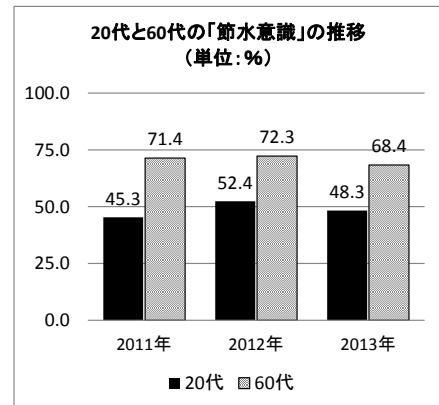
◇節水意識の世代間差縮まらず…20代と60代の差は20.1ポイント

「家庭での水の使い方」について聞いたところ、「節水している(「多少節水」+「かなり節水」)」は59.6%(昨年60.6%)、「気にせず使っている」と「気にしながらも何もせず」の合計は40.4%(昨年39.4%)で、昨年と大差ありませんでした。

年代別では、「節水している(「多少節水」+「かなり節水」)」の回答率が最も高かった60代は68.4%だったのに対し、最も低かった20代は48.3%と、20ポイント以上の開き(20.1ポイント差)がありました。この両世代は、2011年が26.1ポイント差(60代・71.4%、20代45.3%)、2012年が19.9ポイント差(60代・72.3%、20代52.4%)と、常に一定の開きがあることから、節水意識の世代間差は、そう簡単に縮まりそうにありません(下記【ご参考】参照)。



【ご参考】



Q.水にかかわることで知っていること、経験のあることは？ (5択+特にない)

◇水にかかわる経験・認知率が低下

水にかかわる事例を5つあげて経験・認知を聞いたところ、1位は「使っている水の水源地を知っている」(40.8%)、2位「特にない」(39.5%)、3位「利水施設や水道施設の見学」(29.1%)と続き、昨年から順位の変化はありませんでした。

ただ、数値に目を向けると、1位の「使っている水の水源地を知っている」が昨年比で2.5ポイント減(昨年43.3%→今回40.8%)、2位の「特にない」が4.0ポイント増(昨年35.5%→今回39.5%)と、水にかかわる経験・認知率の低下がうかがえ、中でも20代は、この傾向が顕著でした(水源地:4.3ポイント減、特にない:8.0ポイント増)。この要因については、関心度の低下と考えることもできますが、それとは別に、身近に水に関して体験できるような場がなくなってきているという現実があるのかもしれません。

